5-371
家庭学習で知っておきたい機能（3）調べ学習

中学校・高校 / 英語 / 辞書指導 / XD-B4700

最近、家庭学習で電子辞書を使う中高生が増えてきました。彼らは生まれたときから携帯電話やパソコンなどのdigitalに囲まれて育っているため、「使いながら覚える」ことは得意です。
しかし、電子辞書の機能は数多くあり、実際には「教えてもらわないと気づかない」機能もたくさんあります。これらの機能は取扱説明書には書かれていますが、読んでいる生徒は半分もいません。実際、私が行った校内アンケートでは、取扱説明書をまったく読んでいない生徒は58%、パラパラと見た生徒は40%でした。
そこで、「使えば便利なのにあまり知られていない使い方」について、生徒に明示的に指導する必要があります。特に次の3つです。
①成句検索
②ジャンプ機能
③英和は調べ学習に使える

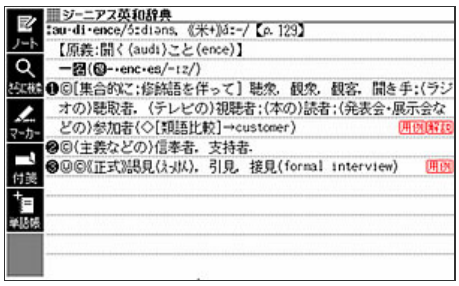
本稿では、③の「英和は調べ学習に使える」の指導例を取り上げます。

「英和は調べ学習に使える」とは、英和辞典を使えば、単語の意味だけでなく、他にもいろんな情報を得られることを教えるものです。特に指導したいことは、次の3つです。
（1）アクセント
（2）可算名詞・不可算名詞
（3）その他の情報（反意語、使い方など）
これら3つの指導例を1つずつ見ていきましょう。

（1）アクセント

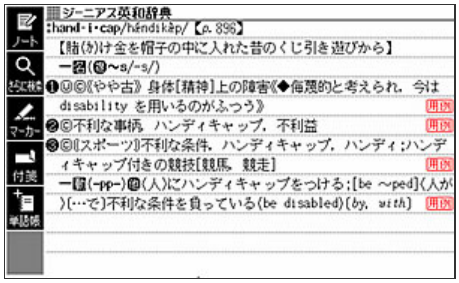
家庭学習で、単語の意味を調べる機会は多くあります。この時生徒は、単語の意味だけメモしていませんか。
　私は、英単語指導では、意味を書かせるだけでなく、単語の上のアクセント部分に、アクセント記号（ˊ）をつけさせるのが効果的だと考えています。英単語のアクセントを意識させることができるからです。意識的に読ませるだけでなく、印をつけることで、正しい発音と正しいアクセントで覚えることができます。発音やアクセントは「出会いが肝心」なのです。アクセント記号は、次のように（右の画面）表示されていることを教えます。

（2）可算名詞・不可算名詞



生徒の中には、「可算名詞」・「不可算名詞」という言葉になじみがない生徒も多いでしょう。英作文をしていて、例えばaudienceという単語にはsがつくのかつかないのか迷った時、そんな時が、「可算名詞・不可算名詞という概念は役立つ」ということを教えるチャンスです。例えばaudienceを和英辞書で引くと、次の画面が出ます。
名詞で「聴衆、観客」という意味のときは、その意味の前に□とあります。□とはcountableの略で、「可算名詞」、つまり、「数えられる名詞」です。数えられるので複数のときはsがつくと教えるわけです。一方、waterのように□がつく単語もあります。これは、「不可算名詞」（uncountable）で、「数えられない名詞」です。この場合は、単語の語尾にsはつきません。
1回このような指導をしておけば、その後は長い間役立ちます。

（3）その他の情報（反意語、使い方など）



英和辞典には、意味以外にも多くの情報が載っていますが、指導しないと生徒はこれらの情報を見ようとしません。彼らの目に入るのは、「求めている情報のみ」なのです。それではもったいないので、「辞書は読むものだ」ということも教えます。例えば、「原義」「反意語」「活用形」「使い方」などを知ることができます。最後の「使い方」について見てみます。日本語でもよく使われる「ハンディキャップ」という単語を調べると、次のようになっています。
handicapとは、「≪やや古い言い方≫で、身体〔精神〕上の障害のことを指します。ただし、侮辱的と考えられ、今はdisabilityを用いるのがふつう」とあります。ここで「なるほど」、と学習するわけです。日本でふつうに使われている語も、英語では侮辱的と考えられ、その使用は適切でないということが学べるのです。こういった単語の使い方は、「意味だけ」を調べていては見つかりません。生徒にはぜひ、「調べたら、意味以外の情報も読もう。そしてメモしよう」とぜひ、伝えていきましょう。

（©e-pros 2012 上山 晋平）